

三菱ケミカルホールディングスグループの製品に対する 生物多様性保全への貢献状況に関する総括コメント

首都大学東京 理工学研究科 教授
可知 直毅

三菱ケミカルホールディングス (MCHC) グループは、「時を超え、世代を超え、人と社会、そして地球の心地よさが続く状態 (KAITEKI)」の実現をビジョンに掲げています。KAITEKI 実現をめざすための3つの方向性 (ベクトル) のひとつが、人と社会の持続的な発展を可能にする「サステナビリティ軸」です。

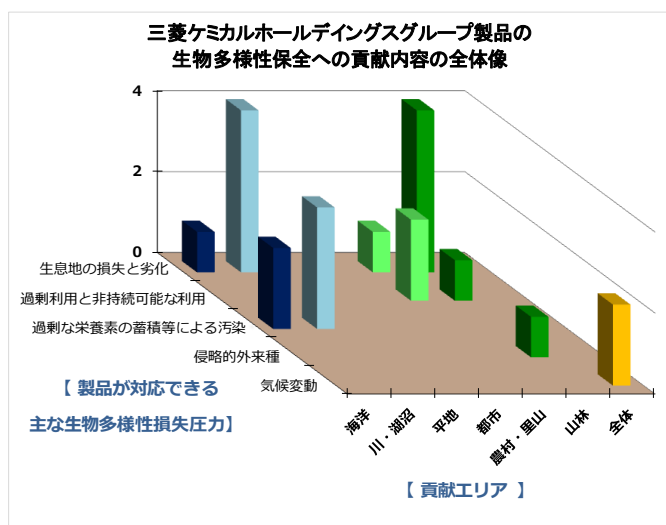
サステナビリティ軸の不可欠な要素が自然の恵み (生態系サービス) です。なぜなら、自然はほんらい自立的に持続できるしくみを備えているためです。そのしくみの根幹が「生物多様性」です。生物多様性は、「多様性」というだけあって様々なとらえ方ができるため、わかりにくいのですが、自然のサステナビリティのしくみに特に関係する生物多様性は、「生物どうしの繋がり」の多様性です。

じつは、人間は、生物どうしの繋がり積極的に手を加えることより、自然の恵みを持続的に利用してきました。SATOYAMA (里山) がその好例です。里山の自然のめぐみを利用し生活することが、結果として里山の生態系を維持することにつながっていました。しかし、現在は、里山の自然のめぐみが利用する機会が減り、里山の生態系が崩れつつあります。残念ながら、SATOYAMA は現在の私たちの生活にとけ込んでいるとは言えません。

KAITEKI 社会では、人が積極的に生物多様性に働きかけながら、自然のめぐみを享受しつつ、結果として持続するような SATOYAMA にかわる新たな生態系が実現しているはずですが。生態学者は、このサステナブルな「新たな」生態系を NOVEL ECOSYSTEM とよび、その生態学的な特徴や実現可能性について研究をはじめています。

MCHC グループ製品の生物多様性への貢献内容の全体像をみると、土壌侵食防止ブロックマット (ゴビマット) など生態系レベルの生物多様性保全に貢献する製品が多いことがうかがえます。MCHC グループが、KAITEKI 社会をめざした企業活動をとおして、人が生活することが持続性をもたらす SATOYAMA にかわる新たな NOVEL ECOSYSTEM の実現に貢献することを期待します。

		貢献エリア							
		海洋	川・湖沼	平地	都市	農村・里山	山林	全体	
製品が対応できる 主な生物多様性損失圧力	生息地の損失と劣化	1	4			1	4		
	過剰利用と非持続可能な利用					2	1		
	過剰な栄養素の蓄積等による汚染	2	3						
	侵略的外来種						1		
	気候変動							2	
貢献する生物 多様性のレベル	生態系	2	5				3	2	
	種	1	4			2	2		
	遺伝子					1			



※図表の数値は、三菱ケミカル HD グループの生物多様性貢献代表製品を貢献エリア、対応できる損失圧力、レベルの3つの観点で分類した該当製品数です。

MCHC グループ製品の生物多様性への貢献内容の全体像